

令和5年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 東京都立あきる野学園 学校運営連絡協議会
- (2) 事務局の構成
主幹教諭1名＝事務局長、経営企画室事務主事1名 計2名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長3名、経営企画室長、主幹教諭7名 主任教諭 3名 計15名
- (4) 協議委員の構成
保護者代表1名、施設職員1名、近隣幼稚園長1名、近隣小学校長1名、近隣中学校長1名、就労支援機関職員1名、生活支援機関職員1名、サービス提供事業所2名、医療機関職員1名、学識経験者1名 計11名

2 令和5年度学校運営連絡協議会の概要

(1) 学校運営連絡協議会の開催内容等

- ア 第1回：令和5年6月17日（土） 内部委員12名、協議委員10名
 - ・協議委員の委嘱、委員紹介
 - ・令和5年度学校運営連絡協議会実施計画について
 - ・令和5年度学校経営計画について
 - ・授業視察
 - ・意見交換
- イ 第2回：令和5年10月25日（水） 内部委員12名、協議委員9名
 - ・令和5年度学校経営計画進捗状況報告
 - ・令和5年度学校評価アンケート中間報告
 - ・意見交換
- ウ 第3回：令和6年2月8日（木） 内部委員12名、協議委員10名
 - ・令和5年度学校経営報告及び学校評価報告
 - ・令和6年度学校経営の方向概要の説明
 - ・意見交換

(2) 評価委員会

- ア 第1回：令和5年6月17日（土） 内部委員6名、評価委員3名
 - ・昨年度の学校評価結果について
 - ・今年度の評価計画及びアンケート（案）について
 - ・意見交換
- イ 第2回：令和5年10月25日（水） 内部委員5名、評価委員3名
 - ・令和5年度学校評価アンケート中間報告と分析
 - ・意見交換
- ウ 第3回：令和6年2月8日（木） 内部委員5名、評価委員4名
 - ・学校評価の総括
 - ・学校評価の評価、改善に向けて

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

(1) 評価の観点

「保護者」、「児童・生徒」、「教職員」、「関係諸機関」の観点でアンケートを実施する。

(2) アンケートの実施時期、対象、規模

9月	全校児童・生徒	対象：299人	回収：175人	回収率：58.5%
9月	保護者全員	対象：299人	回収：268人	回収率：89.6%
9月	関係諸機関	対象：63か所	回収：48か所	回収率：76.2%
9月	教職員	対象：152人	回収：149人	回収率：98.0%

(3) 主な評価項目

- ・学校経営計画に基づき、①人権を尊重した教育の充実、②保護者と共に考える教育の充実、③教科学習の充実・障害特性や個に応じた教育の推進、④キャリア教育の推進と地域との連携の充実、⑤教育の新時代へ向かう準備と実践、⑥知的障害教育部門高等部棟の増設工事の安全な実施と本校舎の機能向上、⑦安全・安心な教育環境の維持向上、⑧体力の向上や文化的活動の活性化に向けた指導の充実、⑨教職員一同がチームとして力を発揮する組織運営と教員の働き方改革の推進について、今年度の取組内容を盛り込み、学習指導、生活指導などについて評価項目を適宜設定する。

(4) 評価結果の概要

・児童・生徒評価

回答率は58.5%と昨年度(71.3%)より下がった。「あきる野学園の生活は楽しいですか」の質問に「はい」と答えた割合が89.1%だった。記述部分「うれしかったこと」について、肢体不自由教育部門では「ほめられたこと」を挙げる児童・生徒が多く、知的障害教育部門ではこれらに加えて、「授業の楽しさ」「友達との関り」に関する内容が多かった。

・保護者評価

リマインドメールの活用や回答率の経過などを広報することで回答率は89.6%と昨年度(71.3%)より大きく向上した。評価が高かった項目は「児童・生徒は楽しく学校に通っていると思うか」「教職員は悩みや相談に真剣に対応しているか」「個別指導計画はわかりやすく適切な内容か」「人権を尊重した取り組みは十分か」「保護者と共に考える教育への取り組みは十分か」であった。評価が低かった項目は、「キャリア教育の推進と地域との連携の充実への取組は十分か」「校舎の老築化及び新校舎増設への対応は十分か」という質問であった。

・教職員評価

「児童・生徒のアレルギー反応に対し、対応手順や役割を明確にし、適切に行動できているか」「児童・生徒、保護者の悩みや相談に、関係諸機関と積極的に連携を図っているか」「人権を尊重した教育が行われているか」については評価が高かった。評価が低かった項目は「校舎老築化への対応」「定時退庁日の有効活用」「心身ともに健康で仕事ができる取り組み」についてであった。保護者アンケートと項目をそろえ分析ができるようにした。双方を比較するとどちらも人権に関係する質問について数値が高い結果となった。

・関係諸機関評価

今年度は就労や生活、相談に関する支援機関と、放課後等デイサービス、進路先事業所の3種の事業所ごとにアンケートを実施した。全体の回収率は71.4%で昨年度の60.9%から向上した。記述意見から、各機関ともさらなる情報提供や連携を求めていることがわかった。進路先アンケートでは「卒業生が社会生活に必要な力を獲得できているか」という問いについて評価が最も低くなっていた。

(5) 評価結果の分析・考察

- ・児童・生徒アンケートについて肢体不自由教育部門で未記入が多かったので分析が必要である。
- ・保護者アンケートで評価が低いキャリア教育については、キャリア・パスポートをどのようにわかりやすく伝えるかを考える必要がある。
- ・保護者アンケートの副籍については評価が高いが一部には意義を見出せない保護者もいると考えられるので、保護者への丁寧な説明があるとよい。
- ・教職員アンケートの質問の仕方について、自主的な取り組みを促す意味からも「学校は」と聞くのではなく、「あなたは」と聞く方がよいのではないかと。
- ・キャリア教育については、関係諸機関である放課後等デイサービスでもわかっていない現状と考えられるので、学校からキャリア教育について伝える場が作れるとよい。
- ・回収率が高くなったことは良いことだが、「アンケートに答えられない理由」もあるはずなので、アンケートをとる意義をPTAと共有できるとよい。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・学校評価アンケートの評価方法と分析方法の改善
- ・保護者の方と共に考える教育の充実に向けて具体的な取り組み方法の改善
- ・学校評価の結果を踏まえた教職員の働き方改革の改善

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・各指導計画、引継ぎシート等の整理・検討
- ・人権尊重教育
- ・キャリア教育の推進と校内外への周知
- ・進路先ニーズを踏まえた授業改善と発信
- ・タブレット端末の活用など授業での活用の好事例の収集、発信
- ・研修活動の成果の発信
- ・教科指導の充実

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

- ・児童・生徒の学びの充実
- ・保護者との強固なパートナーシップの維持
- ・地域に貢献し、地域の信頼を得るネットワークの構築
- ・教職員がいきいきと働き、誇りとやりがいのある職場の確立